拓水

TAKUSUI
No. 689

3
March. 2014

発行（一財）兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌

諸寄港に揚がったダイオウイカ（写真提供：新温泉町）

第17回 山田記念賞表彰式・祝賀会

JF室津女性部 全国大会で農林水産大臣賞の栄誉

《今月の海上安全標語》 ～困ってしまう… ～

「わしはライフジャケット着なくてもええんや!」と聞くことがあります。
そう言わないで！ もしもの時は家族や仲間など周りの人たちも困るのです…

「わしはええ」それが一番　困るねん では、今月も安全操業で!

ようそろ

～ずっと真っ直ぐに～

（ようそろとは航海用語で「宜しく候」の意。主に船を直進させるときの号令として使われる）

共済組合の責務

兵庫県漁業共済組合 参事　福本　好宏

毎月の共済金の支払が完了した時、安堵してボーッとする。こんな時いつも回想することがあります。かつて幼少のころ祖父や父親の背中を見て漁師のまねごとを浜じゅうの子供が競い、竹竿に綱やロープを引っ掛け、どちらがかっこいいとか大きいとかでガキ大将と言わんばかりに自慢し港を駆け回り毎日が本当に楽しかったことを思い出します。

私が生まれ育ったそんな当時の香住は港が船で覆い尽くされ、上屋はカニや魚で一色にされ、セリのサイレンが途切れることなく町じゅう響きわたったものです。

良く考えれば小学校1学年7クラス有り300人近い生徒が存在し家系はもちろん漁師や加工屋といった水産関係でほぼ占められており、今とは違い豊漁で魚価も良く燃料等の経費も低く抑えられ漁家経営は安泰に見え町中が景気に沸いていたことをなつかしく思います。ちなみに町中には映画館が2軒とボーリング場もあり、現在は望郷の念と言った具合で何とか昔のように戻ってほしいと切なる思いで一杯です。

昔と違い我が水産業界の現状は魚が獲れないのに安く、獲れたら獲れたでなお安く、経費は倍返しで魚価は三分の一返しと言った具合、安定していたノリ養殖経営も今では例外ではなく、まともに漁家経営が出来る環境とは到底思えません。このまま漁師が衰退すれば何時か日本のたんぱく源の確保が脅かされることも懸念されます。

この様な環境の下、共済組合として漁家経営を守る責務は大きな役割を賜っていることを今一度噛みしめ、まさかの不漁時に「共済で今年は何とか助かったで～」と声を1人でも多く掛けて頂きますよう「積立ぷらす」も活用しながら役職員一同でがんばりますので宜しくお願い申し上げます。

CONTENTS

No.689　March. 2014

2　ようそろ

3　イカナゴ漁 解禁
神戸で「北方領土の日」記念県民大会開催

4　ＪＦ室津女性部 全国大会で農林水産大臣賞の栄誉

5　第17回「山田記念賞」表彰式・祝賀会 開催

6　関西学院大学と摂津播磨地区漁協青壮年部連合会との交流について

8　消費税法改正等のお知らせ

9　明石市議会議員の勉強会を開催
若松葉を使った料理に挑戦

10　UWHによる県内水産物即売会

11　淡路の魚をもっと知ってほしい

12　ホタルイカの町にダイオウイカが揚がった
海難事故をなくそう

13　兵庫JCC通信

14　旬に想う
大輪田塾だより

表紙の言葉

「諸寄港で揚がったダイオウイカ」（新温泉町）

（写真提供：新温泉町）

新温泉町のＪＦ浜坂で揚がったダイオウイカ。

昨年、テレビで生きた姿が放映されたあと、日本各地でその姿が確認されていますが、生け捕りにしたのは今回が初めてとのことです。

このイカは無脊椎動物としては世界最大級の生物として知られ、伝説の「クラーケン」のモデルとされています。また、マッコウクジラの胃の中から、ダイオウイカとみられる痕跡が見受けられるほか、クジラの頭部に吸盤の跡があることから、クジラが天敵となっているようです。

巨大なイカに、巨大なマッコウクジラが噛みつく…

深海に棲む生き物たちの世界は私たち人類の想像を超えるものなのでしょう…

瀬戸内海に春を告げる イカナゴ漁 解禁

瀬戸内海に春を告げるイカナゴ漁は、大阪湾・播磨灘ともに2月28日（金）から始まり、県下の関係漁港は待ちわびた解禁に活気づきました。

今年は解禁日以降、くぎ煮にするにはちょうど良い35㎜前後のサイズのものの水揚げが順調に続いており、消費者には買いやすくなっているようです。

JF兵庫漁連は、今年は日本郵便㈱近畿支社と兵庫県イカナゴ謝恩実行員会と共同で「親子でいかなごのくぎ煮コンテスト」を3月8日（土）に開催したほか、シートクラブや小中学校等でくぎ煮教室を積極的に行うなど、イカナゴの消費拡大に向けた取り組みを行っています。

このまま順調な水揚げが続くことを期待しています。

（写真提供：JF兵庫漁連 津田英幸氏）

考えよう　みんなで解決　北方領土

神戸で「北方領土の日」記念県民大会開催

2月7日は北方領土の日です。

この日は、安政元年（1855年）に伊豆下田で日露通好条約が調印された日であり、この条約で日露両国の国境が定められ、北方四島（択捉島、国後島、色丹島、歯舞諸島）が日本の領土として、初めて国際的に明確にされました。その歴史的な意義と平和的な外交交渉によって領土の返還を求める運動の趣旨から、昭和56年（1981年）1月の閣議で、毎年2月7日を「北方領土の日」とすることが決められました。

本県では、北方領土返還運動兵庫県推進会議が主催して、毎年、推進大会が開かれており、今年も2月8日（土）神戸市内のホテルで記念県民大会が開催されました。日本青年会議所や行政、企業、漁業団体等から200名が参加し、歴史的事実や国際法上からも我が国固有の領土である北方四島の早期返還運動を粘り強く展開していくことを誓い合いました。

大会では、主催者、来賓らの挨拶に続き、北方領土作文コンクール最優秀作品の発表や、「安倍対ロシア外交」と題して石川 一洋NHK解説委員の講演が行われ、最後に山口 徹夫JF兵庫漁連専務理事が決意表明を朗読して閉会しました。（U／T）

来賓で挨拶する平野正幸兵庫県知事公室長

浜の母ちゃんの挑戦～室津の魚を食卓へ！
JF室津女性部 全国大会で農林水産大臣賞の栄誉

3月4日～5日、東京で開催された第19回全国青年・女性漁業者交流大会（参加者約550人）で室津漁業協同組合女性部（本多春代部長）が「浜の母ちゃんの挑戦～室津の魚を食卓へ！～」と題した活動発表を行い、農林水産大臣賞を受賞しました。

1日目は全国38の青年・女性漁業者グループが、資源管理や経営、資源管理など5分科会でそれぞれ日頃の活動成果を発表し、翌日は講評、表彰式などで2日間の日程を終えました。同女性部は、第4分科会・地域活性化部門で本多部長と山田奈保美さんが分担して発表しました。平成14年に開設した直販所「魚魚市」（とといち）を拠点に、鮮魚や惣菜、週替わりで寿司や弁当販売を行うかたわら、料理教室、小学校での郷土料理給食会など出前講座など多岐に亘る活動事例を通じて「室津の魚」PRや漁協の販売事業にも貢献していることや、地元の人達に親しまれる「浜の母ちゃん食堂」にも挑戦したいなど意欲的な発表でした。

今回の受賞は、本多部長はじめ役員、部員の皆さんの柔軟な発想力での活動や、組合長ら役職員の支援、そして、発表途中で「弁士を若手に交代します」という微笑ましい一幕は、同組織の円滑な持続を伺わせるなど好印象の発表が評価されたと思います。また、それ以上に魚価安、資源減少、燃油高、三重苦で暗くなりがちな漁村地域に新風と活性をもたらす成功事例として、今後の波及効果に期待大というところが高得点につながったと思われます。なお、本発表は全国大会に先立つ2月17日、神戸市内で開催された「農と暮らしの研究発表大会」でも兵庫県知事賞を受賞しています。また、本多部長らは前々から世間でいわれる「魚離れ」という言葉に疑問を感じており、「消費者に魚本来の価値観が伝わっていないのは、自分たちが情報発信していないからではないか？」と考え、魚の旬や新鮮味を積極的にPRしようと普及員・藤井久美さん（たつの市）らの指導を得ながら、漁協荷捌き所横に「魚魚市」を開設し拠点としたとのことです。同部は昭和34年に結成以来、魚食普及、地産地消、環境保全を三本柱に、現在も71名の部員が幅広い活動を続けており「浜の母ちゃん食堂」ができれば地域の絆はさらに深まると期待されています。

「浜の母ちゃん食堂」プレオープンの様子（2月15日）

摂津播磨地区漁青連も「水産庁長官賞」を受賞

今回の交流大会には青年部からも多数参加しています。本県からも摂津播磨地区漁協青壮年部連合会（大角生馬会長）が参加し、第3分科会流通・消費拡大部門で「青年部活動の新たな展開について～資源保護活動から魚食普及活動へ～」と題して発表を行い、「水産庁長官賞」を受賞しました。同連合会は、昭和61年に設立した「ガザミふやそう会」を内部組織に抱えており、資源培養管理活動に特に熱心な取り組みをしてきました。近年、深刻な「魚価安」を何とかしたい、我々でできることは何か？と考え、若手漁業者自ら、学校、消費者団体を対象に魚食普及や魚・海とのふれあいの場の提供など交流機会を重ね、発信に努めています。

今回の活動発表で大角会長は、同会の様々な活動を報告したあと、直近の活動例で、関西学院大学文学部のゼミ生と学内で海・漁業・魚をテーマに交流会をもつ機会を得て、意見交換会や学祭出店を重ねるうち、学食に漁師料理を提供する話に発展した。試しに限定メニューで「LOVE SEA丼」を出したところいつも完売で皆さんに大変好評頂いた。他の大学からもオファーがきており、漁業の現場から生の声を発信できる機会が増えてきたと成果を報告しました。そして「前獲れの魚介類のファン」づくりを通じて、私達の漁業の未来を築きたいと締めくくりました。

（U／T）

第17回「山田記念賞」表彰式・祝賀会 開催

～本県水産業の発展に貢献された3名が受賞～

（一財）兵庫県水産振興基金

「山田記念賞」は、永年にわたり大きな夢と希望を抱いて本県水産業の発展に尽くされた故山田岸松氏を偲び、そのご功績を記念するため平成3年に創設されたもので、水産業の経営、技術に優れ、多年にわたり本県水産業の振興に貢献し、その功績が著名な方に贈られる賞です。

当基金主催による本年度の同賞表彰式および祝賀会は、2月14日（金）神戸市内のホテルで積雪による影響も多少ありましたが、県・漁協等の関係者ら約80名が集まり開催されました。

本年度受賞者は、井上 隆氏（JF神戸市）、福岡 留次氏（JF津名）、石塚 保雄氏（JF但馬）の3名で、当基金 井戸 敏三会長（兵庫県知事）が受賞者・団体へそれぞれ「天与」と命名された「男女漁業者立像」レリーフを贈呈しました。山田 隆義理事長が主催者挨拶をした後、井戸知事は「受賞された皆様には、それぞれの地域で今後ともさらにご活躍されることを期待します」と挨拶し、あわせてこの日の天気を詠み込んだ「雪が降る山にも 海にも 平地にも 自然の恵み ありがたく想う」の歌を贈られました。受賞者を代表して石塚氏からは「50年間、漁師を続けてこられたのは周りの方々と家族、ことに家内のおかげ。感謝するとともに、これからも漁業のために尽くしたい」と謝辞がありました。

受賞者を代表し謝辞を述べる石塚様

このあとの祝賀会では、当基金 貝原 俊民名誉会長（前兵庫県知事）が、当基金の設立時の故山田 岸松氏とのエピソードとして、漁業振興のために尽力された兵庫漁業界のリーダーの先見の明を称えるとともに、受賞者の栄誉をお祝いする挨拶があり、会場は終始華やかな雰囲気に包まれました。

【山田記念賞受賞者】（前列左から）
井上 隆氏、福岡 留次氏、井戸 敏三会長、山田 隆義理事長、石塚 保雄氏

関西学院大学と摂津播磨地区漁協青壮年部連合会との交流について

（一財）兵庫県水産振興基金

昨年6月に摂津播磨地区漁協青壮年部連合会（大角 生馬会長：JF坊勢）が行った「平成25年度関西学院大学消費流通検討会」（拓水2013．7月号にて既報）について、当基金へ関西学院大学文学部 田和 正孝教授より成果報告が届きました。

拓水では2か月にわたりその内容についてご紹介いたします。

摂津播磨地区漁協青壮年部連合会

兵庫県漁業者と地理学地域文化学専修学生との交流活動（成果報告）

関西学院大学文学部 田和 正孝

1．はじめに

漁業地理学の研究手法は様々であるが、生産活動に関する研究、漁場利用形態の研究、漁村の暮らしや文化に関する研究など、いずれをとっても生産者たる漁業者から情報を得ることに努力しなければならないし、最高の情報提供者が漁業関係者であることは言うまでもない。

報告者は、専攻する漁業地理学の立場から、これまで各地の漁業地域や漁村において研究と調査を続けてきた。また、地理学専修の教員として指導する学生に対しても同じような経験を与えることによって、地理学的な研鑽を積ませたいと考えてきた。これまでも各地の漁村に学生を案内し、漁業関係者より数々の指導を得てきた。しかし、このような学外活動は時間的制約、費用的制約などがあり限定的といわざるをえない。そのため、調査研究はもちろん「現場」を重視することは当然であることを認識しつつも、学内での授業において漁業者をクラスに招き、学生との交流を実現できないものかと模索してきた。

ところで、報告者は、兵庫県瀬戸内海海区調整委員会、兵庫の若手漁業者を育成する大輪田塾と関係し、さらにそれらを通じて県内の多くの漁業者、各地の漁業協同組合、県水産課、漁業関連諸団体と情報交換や交流を続けてくることができた。このような貴重な経験を基礎として、2013年度には漁業者と学生との交流機会を実現すべく計画を練りはじめたところ、同年5月に、摂津播磨地区漁協青壮年部連合会事務局より連絡があり、①県内若手漁業者が魚食普及のために大学生との交流を考えている、②本学図書館が所蔵する『兵庫県漁具図解』の閲覧を希望したい、③大学生協食堂のメニューに食材を提供したい、などの申し出があった。

交流会の話は一気に実現性を帯びた。5月中に、大角生馬氏（兵庫県漁協青壮年部連合会会長：坊勢漁業協同組合）、大西正起氏（伊保漁業協同組合）、福山貴久氏（林崎漁業協同組合）の4名に来学いただき、開催に向けて種々検討した。この結果、2013年6月18日（火）に会を催す運びとなった。

2．漁業者と学生との交流

6月18日の交流会スケジュールおよび交流内容は以下の通りであった。

(1) 地理学地域文化学演習Ⅰ授業

第2限（11時10分～12時40分）

於：C号館201号教室

出席者（敬省略）

兵庫県漁業者および関係諸団体・行政関係者：

大角、大西、福山（以上3名、所属先は前述のとおり）

橘 正吾、山本大地、西岡慎介（以上、西二見漁業協同組合）、久 友樹、高木 豊、中川伊佐央（以上、室津漁業協同組合）、小田垣寧（兵庫県水産技術センター）、西詰宗弘（兵庫県水産振興基金）、鈴木雅巳（兵庫県

中播磨県民局姫路農林水産振興事務所）、土井俊彦、冨永裕子、三宅晋吾（以上、兵庫県漁業協同組合連合会）

関西学院大学：

田和正孝（文学部教授）、田和ゼミ3年生（13名）

話題

発表：田和「兵庫県漁業者若手育成の場大輪田塾」（田和）

講演と討論：土井・大角「兵庫県漁業の現状」

学生による授業の感想については後述する。なお、大角氏には授業のゲストスピーカーとして正式に招く形をとるため、この件を6月の文学部教授会において提案した。審議の結果、学部から承認を得た。

⑵　昼食での魚食デモンストレーション

12時40分～13時30分

於：生協食堂パパ

兵庫県の水産品、水産加工品を学生が試食する機会を得た。（参加した学生によるコメントは次号にて）

⑶『兵庫県漁具図解』の閲覧

14時～16時30分

於：関西学院大学図書館

まず『兵庫県漁具図解』を簡単に説明しておきたい。『兵庫県漁具図解』は明治中期における兵庫県内各地の漁業実態を把握できる貴重な文献である。現在、本学図書館が所蔵している。昭和40年代に文学部史学科日本史専修所属の教員が古書店から購入したものであるが、詳細な来歴等については不明である。

本図解は、1897年（明治30）8月、大日本水産会兵庫支会によって編集、発刊されたものである。編集の主旨は、「緒言」によると、兵庫県下における漁具の種類と使用の状態とを調査し、神戸にて開催される第二回水産博覧会に出陳して漁業上の参考にするためであった。その説明は虚飾を避け、事実を明らかにすることを期し、掲げられた図画もその実態を示すことが主であった。調査および編纂には、同年の3月から8月に至る6ヵ月間が費やされた。

鹹水漁業と淡水漁業の二部で構成されており、さらに鹹水漁業の部は、国別にまとめられている。すなわち、鹹水漁業が摂津国1冊、播磨国4冊、淡路国1冊、但馬国1冊、淡水漁業が摂津国・播磨国・丹波国・但馬国をあわせた2冊の計9冊から構成されていた。播磨国4冊のうち、巻1と巻2は東播の部（明石郡、加古郡、印南郡）、巻3と巻4は西播の部（飾磨郡、揖保郡、赤穂郡）の説明となっている。播磨国の巻4が欠巻であることが惜しまれる。収録内容は漁具の大分類ごとにまとめられ、網漁具から説明が始まり、次に釣漁具、雑漁具と続く。合計300の漁具が記載されている。網漁具の記載数がこのうちの58％を占めている（田和 2010）。

『兵庫県漁具図解』は、第二回水産博覧会に出陳された際、どのように評価されたであろうか。久保田（1897）は、「兵庫県、福岡県、高知県、島根県、新潟県、山形県より許多の有益なる水産上の書籍並に写本あり殊に兵庫県より出品の水産並に漁具図解と称する折本は大日本水産会兵庫支会の出品にして九冊に付五百圓なり餘程精密なる有益なる書と思はれたり」というように、高額な頒布価格（現在であれば100万円から150万円に相当する）から、本図解を高く評価されるものであろうと推察している。第二回水産博覧会における漁業およびその沿革に関する調査、図書、方案などの出品数は68点であり、従来の博覧

兵庫県漁業者各位には、摂津、播磨を中心に実物を閲覧いただき、特に底曳網の図を中心に、現在操業している漁法との差異、類似点などを確認し、意見交換した。100年以上前に記録された漁具に対しても共通点が多くみられるとともに、技術上の知識で過去と現在において共有されるものがきわめて多いことも明らかとなった。報告者にとっては、今後、この図解の研究を進めるに際して、現代の漁業者からも多くの示唆を得なければならないことを痛感した。

会に比して著しく増えた。博覧会の審査概評は、『兵庫県漁具図解』を山形県海面漁業組合が出品した『漁業誌』、島根県外海水産業組合連合会会議所が出品した『島根県水産誌』、その他、静岡県漁業組合取締所が出品した漁場図、富山県が出品した沿海漁場図、山口県朝鮮近海漁業組合が出品した朝鮮近海漁場探検図などとともに「斯業参考上最裨益アルヘキモノトス」と評価している(第二回水産博覧会事務局編、1897)。

参考文献

久保田韓七郎（1897）『第二回水産博覧会案内』、久保田通訳館、58p.
第二回水産博覧会事務局編（1897）『第二回水産博覧会審査概評』、金子印刷所、92p.
田和正孝（2010）「『兵庫県漁具図解』から見えてくるもの」、時計台（関西学院大学図書館報）80、pp. 6―14.

【次号では学生から寄せられた感想等について紹介します】

事業者の方へ

消費税法改正等のお知らせ

税務署

消費税（地方消費税を含む。）の税率が
平成26年４月１日から８％（※）になります。

※平成26年４月１日以後に行われる取引であっても、経過措置により旧税率が適用される場合があります。

平成26年4月1日を含む課税期間の消費税及び地方消費税の確定申告書を作成するためには…

帳簿等において、課税取引を適用税率ごとに区分しておく必要があります。

総額表示義務の特例が設けられています。

消費者向けの価格表示については、税込価格を表示（総額表示）することが義務付けられていますが、平成25年10月１日から平成29年３月31日までの間は、「**現に表示する価格が税込価格であると誤認されないための措置**」を講じている場合に限り、税込価格を表示しなくてもよいとする特例が設けられました。

詳しくは、国税庁ホームページでご確認ください。

国税庁 検索

明石市議会議員の勉強会を開催

～「食育」をテーマに意見交換～

(一財)兵庫県水産振興基金

明石市漁業組合連合会（山本 章等会長：JF西二見）は2月4日（火）兵庫県水産会館にて「平成25年度勉強会（第2回）」を開催し、集まった明石市議会議員約20名と意見を交わしました。

まず、JF江井ヶ島橋本 幹也組合長より「明石の魚と食育について」をテーマに、漁業者として考える食育の役割や、現在の学校給食への食材提供や学校での料理教室などの取り組みと、今後の展望などについて話がありました。次に明石産ノリと量販店等で安く売られているノリの食べ比べを行い、議員からは「こんなに違うものか」と驚きの声が上がり、意見交換会では、ノリの漁場環境や流通に関する活発な意見が交わされました。

山本会長は「水産物の本当の味を子供たちに伝えたい」とされ、議員からは「地域の特産品を知ってもらうには何をすべきか」などの意見が出て有意義な場となりました。

明石での食育活動の今後に期待

明石の漁業の現状を伝えました

若松葉を使った料理に挑戦!!

～シートクラブの「旬の魚を楽しむ教室」～

(一財)兵庫県水産振興基金

JF兵庫漁連（山田 隆義会長）SEAT―CLUB（シートクラブ）は、毎回、多彩な講師による料理教室を開催しており、今回、JF但馬の職員を講師に招いた「旬の魚を楽しむ教室 若松葉（ズワイガニ）」を2月18日（火）に水産会館で開催しました。若松葉とは、脱皮したてのズワイガニで「水ガニ」と呼ばれ、身に水分が多く捌きやすいうえ、価格も手頃。毎年この時期に開講される同教室には今年も定員いっぱいの16名が受講し、その味を堪能しました。

JF但馬 橋本 靖彦津居山支所長から但馬の漁業について説明があり、平本 雅大津居山直販店長より若松葉を捌くコツを実演しつつ話されるなか、メモをとったり、動画を撮ったりと熱心に受講される姿が見受けられました。このあと、参加者は捌いたカニをJF兵庫漁連 隅谷翠主任の指導のもと、刺身や焼きガニ、中華風卵とじにと調理し、シートクラブが用意した味噌汁とともに頂きました。

JF兵庫漁連シートクラブでは、料理教室を通じて県内産水産物の魅力を伝える活動を行っており、この活動にご協力いただけるJF・青壮年部・女性部の方を募集しています。興味のある方は、是非、JF兵庫漁連シートクラブ（TEL：078―917―4137）までご連絡下さい。

平本講師の手さばきを見ようと覗き込む参加者ら

旬の若松葉を堪能できた教室となりました

UWHによる県内水産物即売会
～西宮ヨットハーバーで開催～

JF兵庫漁連

特定非営利活動法人瀬戸内海の水域の秩序ある利用を進める会（以下UWH）とJF兵庫漁連の共催、JF赤穂市の協賛による西宮かきまつりが、2月23日（日）西宮市のヨットハーバーで開催され、カキなどを求める家族連れらで賑わいました。

このイベントは、UWHが自らバーベキュー方式での県内水産物を提供する施設の運営を目指して、周辺の需要の規模や、実際の運営においての課題等を探るため行われたものです。PRは会場周辺の約3万世帯への新聞折り込み広告や立て看板、インターネットを利用するなどし行われました。当日は天候にも恵まれ開場前から多くの人が集まり、開始時点では長蛇の列が出来ていたため、用意した殻付牡蠣や剥き身、水産加工品はイベント開始後間もなく売り切れました。無料試食の焼き牡蠣や、牡蠣うどん等を買い求める人は、その味の良さから再度列に並んだり、商品が売り切れた後も次々と購入したいという消費者が訪れるなど、行列はイベント終了間際まで途切れることなく続き、消費者の関心の高さ、需要の大きさを再認識することができました。来場者からは「西播地区まで行く時間がなく、手近で美味しいカキが食べられてうれしい」との声もありました。

JF兵庫漁連では、今後も様々な方法で県内産水産物の良さを消費者に向けて発信し、魚食を更に拡大して行きたいと考えています。

事故を未然に防止するため

“命を守る運動”「海上安全講習会」

を県下各地で開催しております。

～講習会の開催申込みは下記団体まで～

この取組みは、平成22年よりJFや関係団体を対象に行っており、海難事故対策・ライフジャケット着用推進等の内容で開催しています。（この模様は本誌「拓水」で適宜紹介しています。）

講習会開催についてのお問い合わせは

JF兵庫漁連指導部まで TEL 078－940－8013

淡路の魚をもっと知ってほしい！

～淡路地区漁青連の料理教室～

（一財）兵庫県水産振興基金

『子供たちに淡路の魚の良さを知ってもらおう』と淡路地区漁協青壮年部連合会（中村 高治会長：ＪＦ由良町）が、２月４日（火）南あわじ市・洲本市組合立広田小学校の５年生児童ら約80名を対象に開催した料理教室に同行取材をしてきましたので紹介します。

「タチウオ三枚おろしとサザエの身を取り出すことに挑戦」

同漁青連　渡辺 直部員（ＪＦ由良町）が講師を務め、まず、黒板を使って、タチウオの断面図や包丁の入れ方を説明しながら、鮮やかに実演しました。その後、各テーブルに分かれた児童の実習が始まりました。最初は、ぎこちなく見えましたが、高学年ともなると、包丁の扱いも落ち着いており安心して見ることができます。テーブルごとにサポートした部員や洲本農林水産事務所職員の的確な指導もあり、全員が無事にタチウオを三枚におろすことが出来ました。これらの作業に集中し、完成させた時の笑顔とともに出る「できたぁ！」の声に満足感があふれているように思いました。

講師を務めた渡辺さん

中村会長をはじめスタッフは下準備に余念がない

次に、中村会長がサザエの身を取り出す実演をおこない、児童も挑戦しました。こちらも部員らの指導により上手に取り出すことが出来ていました。

三枚おろしのタチウオはタタキ、南蛮漬けになり、サザエは刺身で、同漁青連の準備したたこ飯と一緒においしくいただきました。

「おじいちゃんが漁師。魚をさばくのも早いんやで。」や「おばあちゃんの炊いた魚が好き。」と教えてくれる児童もいて、身近に魚があり、関心が高いこともわかりました。

料理教室を通じ、淡路の魚について、おいしさは勿論のこと魚体の様子や食べ方など、いろいろなことを知ってもらう良い機会になったと思います。

スタッフによる丁寧な指導もあった

～ホタルイカの町に～ ダイオウイカが揚がった！

（一財）兵庫県水産振興基金

（写真提供：新温泉町）

ＪＦ浜坂（新温泉町）の諸寄漁港近くの海でダイオウイカが生きたまま捕獲され、情報を聞いて集まった地元住民や報道陣が見守るなか引き揚げられ、浜は「深海からの使者」に大いに沸きました。

２月25日（火）午前10時30分ごろ、同ＪＦ組合員の岡本 哲雄さん（63歳）は同漁協沖の約８メートルの海底で素潜り漁を行っていたところ、水中約４メートルの頭上を泳いでいるダイオウイカを発見しました。岡本さんは船に戻り、イカの胴にロープを巻きつけて捕獲し、船でゆっくり引っ張ってきてから仲間約10人で引き揚げたとのことです。

引き上げられたダイオウイカは、体長４・13メートルで、餌を取る長い触腕は２本ともちぎれてしまいましたが、これがあれば約８～９メートルに達し、重さは推定約２００キロで胴の幅は約56センチもあるものでした。

深海に生息するダイオウイカがこの冬、日本海沿岸の広い範囲で相次いで見つかっていますが、生きたまま捕獲されたのは初めてです。この貴重なイカは後日、兵庫県立人と自然の博物館へ運ばれました。

ホタルイカの水揚げ量日本一として知られる同ＪＦですが、この日は小さなホタルイカとは全く異なる巨大イカで活気づいた一日でした。

ダイオウイカを生け捕った岡本さん
（写真提供：新温泉町）

海難事故をなくそう！

ライフジャケットを着用しよう！

自動膨張式ライフジャケットはボンベなどの定期的な点検・メンテナンスが必要です。

自動膨張式ライフジャケット
モデル：ＪＦ兵庫漁連 藤本 朋也さん

～安全をサポート～ 浮力合羽はお持ちですか？

ＪＦ兵庫漁連が開発したもので、浮力は十分あります。

※ライフジャケットではありませんので、一人乗りの漁船の場合、ライフジャケットを着用してください。

ライフジャケット・浮力合羽の購入は
所属JFかJF兵庫漁連資材部（078－942－9272）までお問い合わせください

「JA生活文化活動実践集会」を開催

JA兵庫中央会は、1月17日（金）神戸市内で「協同の力でくらしと地域を豊かに」をテーマにJA生活文化活動実践集会を開催し、9JAの役職員と女性組織代表者など約80人が出席しました。

冒頭、JA兵庫中央会の高品常務理事が、JAを取り巻く環境変化を踏まえたJAくらしの活動の展開方向について提案しました。続いて、家の光協会の下川代表理事専務が、JA教育文化活動の実践と家の光誌の活用について報告。

家の光誌体験発表では、JA兵庫西女性会の立石氏が、同誌創刊より約90年にわたる農家家庭や女性会活動における記事活用体験を、また同JA姫路西部営農生活センターの岩本センター長が、組合員・地域住民との絆の強化に向けた家の光誌普及活用の取り組みについて発表しました。

また、JAあつぎの井萱代表理事組合長が、地域から認められ信頼される組織を目指した地域農業振興や教育文化活動の取り組みについて紹介しました。

最後に、東京農業大学小泉名誉教授が、日本人の健康を支える「和食の底力」について講演しました。

本実践集会を通じて、安心して暮らせる豊かな地域社会の実現に向けて、より効果的なJAくらしの活動の展開が必要であることを確認しました。

家の光誌普及活用について発表する岩本センター長

http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/

子育て支援事業（学童保育）“Terakoya”をスタート

生活協同組合コープこうべでは、4月から学童保育の新事業「子育て支援事業“Terakoya”」がスタートします。コンセプトは、「親の安心を大切に」「子どもが主役の成長の場に」「地域の絆を大切に」の3つ。週1回から5日、小学生を預かり、宿題に取り組む学習時間やおやつ、遊びの時間をとってより良い生活習慣を身につけます。コープこうべが培ってきた子育て支援のメニューをプログラムに組み入れるなど、生協ならではの事業として展開していきます。

1月には利用希望者に向けた見学会を行い、53組の親子が参加しました。事業説明では、保護者が内容や料金の説明に熱心に耳を傾け、「夏休みだけ利用できますか」「駅まで迎えに来てもらえるのですか」など、多くの質問が出されました。なかには、1年先を見越して説明会に参加された組合員も。学童保育がいかに大きな“社会的な困りごと”であるかが垣間見えました。一方、子どもたちはお絵かき、読書、ドミノや将棋などで遊んだり、昼食やおやつを試食するなど一足早く体験し、「早く来たいな」「先生には春から会えるの」など、楽しみにしている様子でした。

4つの新聞社の記者会見も行いました

http://www.coop-hyogo-union.or.jp/

旬に想う

写真と文
遊方子

道具曼荼羅

金魚の群れ

◆「道具」という言葉の定義は多岐に亙り、広辞苑には六つ挙げてある。仏具・器具・武器・舞台用の装置類などであるが、此処では加工用に使う器具を取り上げたい。つまり、鉋（かんな）や鑿（のみ）・鋸（のこぎり）の話である。筆者の祖父は大工、父が左官職だった。昭和二十年終戦の年に父は戦病死、祖父は赤痢に罹り隔離病院で逝くなったため、共に顔さえ記憶に朧である。この二人が残した道具類は、半端で無く大量にあった。二階へ上がる階段下に、旨く棚を拵えて整理してあり、幼時から見慣れてはいたが、特に左官の使う鏝（こて）の種類の多さに驚かされたものだ。全て他者へ譲渡してしまい、一丁も残ってはいないが、柄と鋼のバランスのとれた形が何とも見事だったのを覚えている。

◆県庁近くの「竹中大工道具館」で『棟梁／堂宮大工の世界』という巡回展を見学した。法隆寺の大修理の際、棟梁をつとめた西岡常一氏を紹介しており、緻密に描いた設計図の見事さや棟梁直筆の技術ノートの精緻さに驚かされた。数百年の風雪に耐える寺院や神社を築く技の確かさ、信念を持って立ち向かう姿勢に荘厳なものを感じた。棟梁は「我々は木を刻む専門家だから、道具が切れねばならん、自分の手先だと思え」と、よく言ったらしい。仕事は道具にあり。法隆寺金堂の修復に使ったヤリガンナや鑿など、直ぐ使えそうに光っていた。

◆鉋台の削り面は、完全な平面では木をうまく削れない。好みに合わせ幾らか傾斜をつけ工夫してある。削り屑は、和紙を長くした感じで薄く裏が透けて見え、鉋が作り出す芸の極みといえる。この鉋を小さく作った「豆鉋」は手の平に乗る小さな逸品で、外国政府の役人への土産品となって海を渡ったという。或る鉋職人は注文を受けると、まず古い鉄材探しに駆けづり回るという。古い蔵が取り壊される時、扉の金具や蝶番を貰い受けて、それを材料に見事な和鉋の刃が生まれる。名工の腕が、安易な妥協を許さないとの事である。

◆「鋸」も名品になると挽き肌が鋭利な刃物で削ったようになり、改めて鉋を掛ける必要がない。或る大工が、銘木の床柱を誤って短く切り、代品の柱も無くて青くなった。幸いに身が薄く歯も細かい細工用の胴付鋸だったので、切り口を合わせるとピッタリと合い見た目に全く判らない。大工は鋸に手を合わせたという。昔、両国橋を拵えた時、対岸まで一気に切り揃えた大工職の話が伝わるが、鋸の状態が非常に良かったようだ。鋸は歯の切れ味も大切だが、鋼の表面につけた細かなヤスリ目の状態も大事である。オガ屑が詰まらぬ工夫だ。

大輪田塾だより

救命救急とJF共済について

2月25日（火）に行われた講座は、「あなたは人を助けることができるか ～水難救命救急の理論と実践～」と「JF共済事業について」の2講座でした。

「あなたは人を助けることができるか」は神戸海上保安部警備救難課 村本 克巳課長が同保安部の歴史や事業内容について説明され、続いて同課の職員から救命救急の理論と実技を学びました。実践では訓練用人形を使ったCPR（胸骨圧迫・人工呼吸）とAEDの使用方法について、また、外傷への対処法をトマトジュースを血に見立てた実演から学びました。これらの講習はJF等でも行われていますが、実際に人形を触ったりするのが初めての塾生も多く、たくさんの質問で時間を超える講義となり関心の高さが伺えました。

続く「JF共済事業について」は共水連兵庫県事務所 磯田 政志所長が、保険と共済の違いや、JF共水連の歴史、掛金の流れなどを説明されたほか、同事務所 小柴 佐王里課長代理から商品説明もありました。塾生は再度、JF共済事業や加入内容について確認する必要があるといった話もあるなど、広く共済事業について学ぶことが出来ました。

JF共済事業について講義をする磯田所長

トマトジュースを使っての外傷への対処法を学ぶ

発行：一般財団法人 兵庫県水産振興基金
〒673-0883 明石市中崎1丁目2番3号 兵庫県水産会館2F
TEL 078-919-1331 FAX 078-919-1336